



## アドビシステムズ社、2010年度第2四半期の業績を発表

### 過去最高の売上を達成 16億ドルの株式買い戻しプログラムを発表

#### 【2010年6月23日】

米国カリフォルニア州サンノゼ発(2010年6月22日) Adobe Systems Incorporated (Nasdaq: ADBE) (本社: 米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビシステムズ社) は本日、2010年度第2四半期(2010年3月6日から2010年6月4日)の決算結果を発表しました。

2010年度第2四半期の売上は、過去最高の9億4,300万米ドルでした。2009年度の第2四半期の売上高は7億470万米ドルで、2010年度の第1四半期は8億5,870万米ドルでした。これは、前年同期比で34%増となります。アドビシステムズ社の第2四半期の売上目標は、8億7,500万米ドルから9億2,500万米ドルでした。

アドビシステムズ社の社長兼CEO(最高経営責任者)であるシャントヌ ナラヤン(Shantanu Narayan)は、「過去最高の売上と第2四半期の堅調な業績は、Adobe® Creative Suite® 5の発売が順調であったことが寄与しました。あらゆるメディアや端末向けデジタルコンテンツの爆発的な増加により、当社の成長は加速しています」と述べています。

#### 2010年度第2四半期のGAAPに基づく(GAAPベース)の業績

今四半期のGAAPベース希薄化後1株当たり利益(EPS)は、期間中の加重平均発行済株式数5億3,330万株に対し、0.28米ドルでした。前年同期は加重平均発行済株式数5億2,800万株に対し、EPS0.24米ドルでした。2010年度第1四半期は加重平均発行済株式数5億3,260万株に対し、EPS0.24米ドルでした。

今四半期のGAAPベース営業利益は2億2,730万米ドルでした。前年同期実績は1億6,140万米ドル、2010年度第1四半期実績は1億7,680万米ドルでした。今四半期の売上に対するGAAP上の営業利益率は24.1%で、前年同期は22.9%、2010年度第1四半期が20.6%でした。

今四半期のGAAPベース純利益は1億4,860万米ドルでした。前年同期実績は1億2,610万米ドル、2010年度第1四半期実績は1億2,720万米ドルでした。

#### 2010年度第2四半期のGAAPに基づかない(Non-GAAPベース)業績

今四半期のNon-GAAPベース希薄化後1株当たり利益(EPS)は0.44米ドルでした。前年同期のNon-GAAP EPSは0.35米ドル、2010年度第1四半期のNon-GAAP EPSは0.40米ドルでした。

今四半期のNon-GAAPベース営業利益は3億3,450万米ドルでした。前年同期実績は2億3,770万米ドル、2010年度第1四半期実績は2億8,930万米ドルでした。売上に対するNon-GAAP上の営業利益率は、今四半期が35.5%で、前年同期と2010年度第1四半期はともに33.7%

でした。

今四半期の Non-GAAP ベース純利益は 2 億 3,420 万米ドルでした。前年同期実績は 1 億 8,500 万米ドル、2010 年度第 1 四半期実績は 2 億 1,170 万米ドルでした。

### **2010 年度第 3 四半期の目標を発表**

アドビ システムズ社は 2010 年度第 3 四半期の売上目標を 9 億 5,000 万米ドルから 10 億米ドルに設定しています。第 3 四半期の営業利益率目標は、GAAP ベースで 25.5% から 27.5%、Non-GAAP ベースで 36% から 37% です。さらに、アドビ システムズ社は同社の発行済株式数について、5 億 3,200 万株から 5 億 3,400 万株を目標にしています。また、営業外費用については、1,250 万米ドルから 1,350 万米ドルを見込んでいます。GAAP ベースと Non-GAAP ベースの実効税率は約 25% と予想しています。

この予想からアドビ システムズ社では、2010 年度第 3 四半期の希薄化後 1 株当たり利益の目標を、GAAP ベースで 0.32 米ドルから 0.37 米ドルの間、Non-GAAP ベースで 0.46 米ドルから 0.50 米ドルの間と見込んでいます。

### **株式買い戻しプログラム**

アドビ システムズ社は、同社の取締役会が 2012 年度末までに最大 16 億米ドルの普通株式の買い戻しを承認したことも発表しました。この新たなプログラムは、既存の希薄化効果を相殺する株式ベースのプログラムを、米ドル (金額) ベースのプログラムへと修正するものです。

アドビ システムズ社の取締役副社長兼最高財務責任者のマーク ギャレット (Mark Garrett) は、「今回の株式買い戻しプログラムは、アドビ システムズ社の長期的な成長に対する自信と株主への利益還元に対する当社の取り組みを実証するものです」と述べています。

### **将来的観測の開示について**

本プレスリリースは、実際の業績を大幅に異ならせる可能性のあるリスクと不確実性を内包した売上、営業利益率、営業外費用、実効税率、株式数、1 株当たり利益、予測される株式買い戻し、および市場の成長性に関連する将来的観測を含みます。実際の業績を異ならせ得る原因としては、以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- 新製品およびサービス、または既存製品およびサービスの新しいバージョンまたは機能強化に関して、顧客の要求に応える開発、市場投入、流通の失敗
- 既存の、または新たな競合他社による新製品およびサービスならびにビジネスモデルの市場投入
- 新たなビジネスモデルや新たな市場への移行の失敗
- 不況および金融市場の不確実性など、アドビ システムズ社が事業をおこなっている主要地域での一般的な経済、政治的環境の不利な変化
- 新規事業からの売上予測の難しさ
- 過去および将来の買収において見込まれた利益の達成困難およびそれら買収先の統合の難航
- 知的財産の取得、紛争、訴訟に伴う費用
- アドビ システムズ社の知的財産を第三者による侵害、不正複製、不正使用、または不正開示から保護できないこと
- 当社の製品およびシステムのセキュリティに関する脆弱性

- 当社のサービスまたはサービスのホスティングまたは提供を行うサードパーティサービスプロバイダからのサービスの中断または遅れ、セキュリティまたはプライバシーの侵害、もしくはデータ収集の失敗
- 販売経路および流通経路ならびにサードパーティの顧客サービスおよび技術サポートのプロバイダーの効果的な管理の失敗
- 天災、大惨事による事業中断
- 世界的な事業展開に伴うリスク
- 外国為替相場の変動
- 当社の債務返済義務に伴うリスク
- 会計原則またはその解釈の変更
- アドビ システムズ社の営業権または無形資産の減損
- 税に関する法令またはその解釈の変更
- 主要な人材を集め、維持することができないこと
- 資本市場の悪化による投資ポートフォリオの減損
- 株式投資に伴う市場リスク

これらおよびその他のリスクと不確実性についての解説に関しては、アドビ システムズ社が証券取引委員会（SEC）に提出した書類をご参照ください。

本プレスリリースに記載された財務情報は現時点で得られる情報に基づく推定を反映したものです。これらの金額は、アドビ システムズ社が 2010 年度第 2 四半期（2010 年 3 月 6 日から 2010 年 6 月 4 日）について 2010 年 7 月中に提出予定の四半期報告書（Form10-Q）に記載される実際の業績数値とは異なる場合があります。アドビ システムズ社はこれら将来的観測を更新する義務を負うものではありません。

#### **アドビ システムズ社について**

アドビ システムズ社は、時間や場所、利用するメディアや機器を問わず、あらゆるユーザーの、アイデアや情報との関わり方に変革をもたらしています。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイトに掲載されています。